

本サンプルでは
「単文論」の「陳述
文」の項のみ御覧
いただけます。

中国語教学(教育・学習)文法辞典

鳥井 克之 編著

まえがき

構語論

構語法・語構成 語素 語根 接辞(接頭辞、接尾辞、接中辞) 単語 単純語(連綿語、外来語)

合成語 複合語＝「複合式」合成語 略語・略称

品詞論

品詞 名詞 方位詞 動詞 能願動詞 方向動詞 判断動詞 体言性目的語動詞・用言性目的語動詞

形容詞 状態詞 区別詞 数詞 量詞 数量詞 代詞 人称代詞 指示代詞 疑問代詞 副詞 前置詞

接続詞 助詞 構造助詞 動態助詞・時態助詞 語気助詞・語助詞 感嘆詞 擬声詞・擬音詞 兼類詞

統語(文・句)成分論

統語成分・文成分 主語・主語部分＝主部 述語・述語部分＝述部 述語動詞・述語形容詞 目的語

補語 連体修飾語 連用修飾語 中心語・被修飾語 同格語 挿入語・独立語

句型論

句 連合句 主従句 述補句 述目句 主述句 名詞句 “的”字句 動詞句 形容詞句 前置詞句

連述句 兼語句 同格句 固定句

単文論

単文 省略文 非主述文 無主語文 一語文 陳述文 疑問文 諾否疑問文 特定疑問文 反復疑問文

選択疑問文 一語疑問文 反語文 命令文 感嘆文 “把”字文 “被”字文 “是”字文・判断文

“有”字文・存在文 存現文 名詞述語文 主述述語文 比較文

複文論その他

複文 並列複文 時系列複文 累進複文 選択複文 因果複文 逆接複文(讓歩複文を含む) 仮定複文

条件複文 連鎖複文 緊縮文 多重複文 多義構造 標点符号

東方書店

陳述文

〈陈述句 chénnshùjù〉 declarative sentence

名称：

日本語では「陳述文」と呼ばれているが、中国語では〈直陳句〉〈叙事句〉〈叙述句〉〈陳述句〉と称されていた。現在では〈陳述句〉と呼ばれている。

定義：

1920年代に金兆梓(1922)は〈直陳句〉と称して、

〈直陳句〉はまた二種類に分けることができる。すなわち〔子〕肯定文[affirmative sentence]、〔丑〕否定文[negative sentence]である。

と定義した。

1940年代に呂叔湘(1942)は

文は、それらの構造に基づいて、数種類に分けることができる。
いまは事柄を叙述する文を選んで述べることにする。例えば「**猫捉
老鼠**（猫が鼠を捕まえる）」である。……これが〈叙述句〉である。

と述べた。

また王力(1943)は

〈叙述句〉とは動詞を述語とするものであり……〈叙述句〉はある事柄を叙述するのに用いられるものである。……普通の〈叙述句〉は、すべて経常的に存在しない事柄を叙述するものである。

と定義した。

また高名凱(1949)は

動詞的機能を備えた単語を述語あるいは述語の主要成分とする文がすなわち〈動句(動詞文)〉であり、「いかなる事柄が発生したか」という質問に回答する。……〈動句〉はまた〈叙述句〉と称することができる。

と説明しており、文の用途と述語部分による文の種類が混同されている状態であった。

しかし1960年前後に張志公等(1959)は

他の人にある事柄を伝える役割を果たすことができる文は〈陳述句〉と呼ばれる。〈陳述句〉の文イントネーションは一般的に平坦なものであり、文末には〈句号(ピリオド)(。〉を用いる。

と説明していた。

また丁声樹等(1961)は

もしも文の用途を基準にすれば、文は陳述、命令、疑問などの種類に分けることができる。例えていえば、「**今天下午两钟开会**（今日午後二時に会議を開く）」は〈陳述句〉である。

とし、文の用途による種類と述部による文の種類が峻別された定義がなされた。

1980年前後に胡裕樹等(1979)は

〈陳述句〉の基本的用途は事実を説明することにある。

と簡潔に説明した。

また黄伯荣等(1980)は

ある事柄を説明し、陳述の語気を表す一つの文イントネーションがある。このような文は〈陳述句〉という。

と説明し、また張静等(1980)は

〈陳述句〉とはある事柄を叙述する文である。

と定義した。

さらに朱徳熙(1982)は

〈陳述句〉は形式論理学における命題であると翻訳できる文である。真であるか偽であるかを判断できる文である。

とし、論理的な定義が下されるようになった。

これらの定義に見られるように 1960 年前後までは陳述文イコール動詞文と考えられていたが、現在では名詞文、形容詞文、さらには主述句文を含む、本来あるべき範疇を包括する概念を表す名称として「陳述文」が用いられるようになったのである。

種類：

陳述文は肯定文、否定文、強調文の三種類に分けられる。

1. 陳述された事柄に対して肯定を行う文

例：那位人是我的老师。（あのお方が私の恩師です）

他北京人，她上海人。

（彼は北京の生まれで、彼女は上海の生まれです）

我满腔的愤怒。（私は胸が憤怒で張り裂けそうだ）

今天国庆节。（今日は国慶節です）

我赞美白杨树。（私はポプラの木を賛美する）

他忽然坐起身。(彼は突然身を起こして座った)

他坐飞机到北京来。(彼は飛行機で北京にやって来た)

马跑得快，牛走得慢。(馬は速く走り、牛はゆっくり歩く)

这个大，那个小。(これは大きい、あれは小さい)

南京长江大桥宏伟壮丽。(南京長江大橋は雄大で壮麗だ)

他越说越说得快。(彼は話せば話すほどますます速く話す)

他身体好，学习好，工作好。

(彼は体が丈夫で、勉強ができ、[課外]活動もよくする)

自行车他很会骑。(自転車なら彼はとても上手に乗る)

2. 陳述された事柄に対して否定を行う文

例：他不是北京人，她也不是北京人。

(彼は北京の者でなく、彼女も北京の者でない)

今天不是国庆节。(今日は国慶節ではない)

这不是老老实实的态度。(これは真面目な態度ではない)

这里没有你的课本。(ここに君の教科書はありません)

他不在学校里。(彼は学校にいません)

他没去过中国。(彼は中国に行ったことはありません)

他不去美国。(彼はアメリカに行きません)

他的作法不对。(彼のやり方は間違っている)

这个不大，那个不小。

(これは大きくないが、あれは小さくない)

他的病还没有好。(彼の病気はまだ好くなっていません)

自行车他不会骑。(自転車は彼が乗れません)

3. 陳述された事柄に対し手「…是……的」「…是……」を加えて強調を行う文(二種類の翻訳の、後のものが強調文のものである)

例：我是义不杀人的！

（私は道義上人を殺さない—私は道義心を持っており、人殺しをするものではないのだ）

倒退是没有出路的！

（後退するのは活路がない—後退することは活路が無いということだ）

我正是在这一夜经过我的故乡鲁镇的。

（私はこの夜、私の故郷魯鎮で過ごした—私は正にこの夜私の故郷魯鎮で過ごしたのである）

是他们委屈了你。

（彼等は君[の不当な行為]に不満を抱いている—君に不満を抱いているのは彼等なのだ＝他の人ではない）

是我搞错了。

（私がやり間違えました—やり間違えたのは私です＝他の

人ではない)

是你没有吸取教训。

(君は教訓を吸収しなかった—教訓を吸収しなかったのは
君だ=他の人ではない)